



射添の子

香美町立射添小学校

香美町立射添幼稚園

第10号

2025.10.8

ふるさとに愛着を持ち 学び続ける 笑顔あふれる射添っ子の育成（小学校）
のびのびと活動し 笑顔あふれる子どもの育成（幼稚園）

10月に入り、朝夕の冷え込みに秋の深まりを感じる今日このごろ、保護者の皆様にはいつもご理解ご協力をいただきありがとうございます。先月は運動会の練習で子どもたちの真剣に取り組む姿が印象的でした。

今月は遠足・オープンスクールのほか、但馬造形展・秋の書写コンクールなどの文化的な取組が続きます。令和7年度も折り返しを迎え、子どもたちの成長がよりはっきりと見られてくる頃です。できるようになったこと、深めた学びについてご家庭でも話題にいただければ幸いです。

朝晩の寒暖差が大きくなりますので、体調管理にご留意ください。今後も学校園・家庭で連携し、子どもたちの成長を見守ってまいります。どうぞよろしく願いいたします。

「言語化」の力

9月の全校朝会で「言語化」ということについて話しました。

「言語化」とは、自分の考えや気持ちを言葉にすることです。たとえば、友だちに「嬉しい」と伝えることで、自分の気持ちがもっとはっきりして相手にもその気持ちが届きます。逆に、なんとなく「楽しかった」とだけ思って終わるとぼんやりとした感想になってしまいます。一言でもいいので具体的に言葉にすることで、自分自身の発見や成長につながります。

私が1年生の担任をしているときのことです。算数の授業で「どうしてこの問題が分かったの」と尋ねた時に、「なんとなくわかったから」ではなく、「図を描いて、数字を色で分けたら見やすくなったから」と説明してくれた児童がいました。その言葉を聞いて、クラスのみんなども「なるほど」と納得して、次の学びに向かうことができました。

そのような話をした後、「今日からできること」として

- ・毎日、授業や遊びの中で「気づいたこと」を1行書いてみる。
- ・今日感じた「楽しかった」「難しかった」などの気持ちを友だちや 家族に一言で伝えてみよう。
- ・自分の書いた言葉を声に出して読むと、さらに頭に残りやすくなる。

等の例を話しました。

言葉にすることで、自分自身の考えが整理され、新しいアイデアや理解が生まれます。短い一文でもよいので。毎日の学びや感じたことを「言語化」してもらいたいです。それが、一人一人の力をグンと伸ばすきっかけとなります。自分自身の気づきを大切にして、毎日を過ごしてもらいたいものです。ここまでが、全校朝会で子どもたちに話したことです。

ここからは、その後に私が聞いた「言語化の力」に関連すると思った内容です。

先日、芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザさんの講演を聞く機会がありました。「わかりあえないことから」という演題で、2012年には同名の著書も発行されています。講演では「わかりあえないこと」を前提にした人間関係や社会の在り方について語られていました。コンテクスト（発言や行動の背後にある状況・背景・前提）を意識したコミュニケーションが大切であると仰っておられました。

日本には「阿吽の呼吸」「以心伝心」など言葉で明示しなくても伝わることを良しとする価値観があります。これはハイコンテクスト文化といわれます。特徴として、「情報の多くが暗黙で伝わる」「関係性・場の読みが重視される」「非言語要素や省略が多い」といったものがあげられます。反対に北米や北欧、豪州などはローコンテクスト文化と言われています。特徴として、「情報は明確に言語化される」「契約・規則・説明が重視される」「非言語に頼らない」などがあります。どちらが良い悪いということではなく文化の違いなのですが、「これくらいわかるだろう」ではなく、思いや考えを伝えることで自分も相手も成長することもあります。ご家庭でも、意識していただけるとありがたいです。（裏面に続きます）

家庭で育てる「言語化の力」

～ハイコンテキストとローコンテキストからの提案

では、どのようにご家庭で意識していただければよいか、調べてみました。

忙しい毎日でも、家庭の短い会話が子どもの安心感や表現力を育てます。ハイコンテキストは「言外の意味」を読み取る力を育てる場面で、表情や沈黙、共有された習慣が大切になります。一方、ローコンテキストは「言葉で明確に伝える」練習ができる場面で、具体的な指示や情報の言語化が子どもの整理力を高めます。

ご家庭では両方を意識すると効果的です。毎夕食に「今日いちばんの出来事」を一人ずつ話す5分を設けると、ハイコンテキスト側の共感的な聞き方（相づち・目線）とローコンテキスト側の事実確認（いつ・何を・どうした）を自然に両立できます。友だちトラブルではまず黙って聴き、次に「順を追って教えて」と事実を整理する質問を加えると、感情の受け止めと問題解決力の両方が育ちます。

このように書いてみましたが、おそらく普段ご家庭の中でしていただいていることではないでしょうか。親御さんの役割は「聴き方」と「言い方」を使い分けること。少し意識するだけで、子どもの自己表現と他者理解が育ちます。まずは今日の夕食で5分、話を聴く時間を試してみたいはいかがでしょうか。



全国学力・学習状況調査の結果を受けて

【国語科】

- 文章を「書く」「読む」についての力がついている。
- 目的や意図に応じて伝え合う内容を検討することや、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめるなど、「話す、聞く」について課題が見られる。
- ◇読書通帳・家読カードの活用を継続し、読書活動の充実を図る。
- ◇漢字の定着のため、チャレンジしやすくフィードバックの速いタブレットの活用や小テストや既習漢字テストを実施する。
- ◇グループでの話し合い活動の充実をはかるとともに、伝える上での観点を確かめながら「話す、聞く」の学習を進める。

【算数科】

- 整数の計算や、表の読み取り、立体図形など基礎基本の定着が図れている。
- 算数用語を使って説明する力、図形のかき方、文章を読み取る力に課題がある。
- ◇既習問題の振り返りを丁寧に行う。
- ◇個に応じた対応を進める。
- ◇立式の過程を文章や図で表現させ、説明する力を身に付けさせる。

【理科】

- 全体的に理解できている。
- 植物の成長について、実験や観察方法について理解できていない。
- ◇実験の条件や実験器具の操作方法等について丁寧に指導する。
- ◇日々の授業の取組を日常生活にフィードバックしていく。

【質問紙より】

- 自己肯定感が高い。
- 将来の夢や目標を持っている児童が多い。
- 主体的に学習に取り組む児童が多い。
- 読書習慣が身につけている児童が多い。
- いじめに対する認識が弱い。
- タブレットを使っての情報整理が苦手であると感じている児童が多い。
- ◇読書活動の継続、自主学習を推進するとともに、家庭学習の決まりの取組を継続する。
- ◇人権教育を推進し、いじめの定義や事例等を用いた授業を実施する。
- ◇6年生の算数（データの整理と活用）を丁寧に行う。

- よい点
- 課題点
- ◇今後の取組

全教員で結果を分析し考えた具体案について、今後取り組んでいきます。しかし、この取組は学校だけでは進みません。ご家庭との連携が重要です。今後も協力をお願いすることがあると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

